

〈奈良・大和を愛したあなたへ〉

マルコポーロをして地上の楽園と言わしめた
中国杭州の西湖。私は今娘と一緒に白堤湖岸
のホテルの一室から月光が湖面の穏やかな波
間に浮かんでは消え浮かんでは消え、揺れた
たずむ様を見ながらあなたの事を考えていま
す。一ヶ月前お父さんがいつも使っていた机
の引き出しからあの数十通に及ぶ私達親子に
宛てた手紙を見た時から、私はいつかきつと
お父さんが良く訪れたと言う西湖を自分の目
で見てみよう、きつと娘と二人で来よう・・
と思っていました。今娘と二人で湖面に浮か
ぶ笹の葉の様な小舟を見ていると「なぜかこ
こに来ると故郷奈良の風景を思い出すんだよ
」とお父さんが言っていた気持ちが理解出来
るような気がします。でも私に取って奈良は
生まれ故郷だけど、お父さんに取っては第二
の故郷なんだよね。お父さんが福岡の大牟田
と言う炭鉱街から一人で奈良に移って来た事
は、お母さんから聞いて知っています。

な の に お 父 さ ん が 奈 良 を ど う し て あ ん な に 愛
し て い た の か 、 そ の 理 由 が ど う し て も 理 解 で
き ま せ ん で し た 。 亡 く な る 寸 前 ま で の 約 1 0
年 間 、 そ う 娘 愛 梨 が 生 ま れ 離 乳 直 後 ま で ま る
で 、 私 の 成 長 に 合 わ せ る よ う に 、 あ ん な 思 い
で こ の 手 紙 を 書 い て い た な ん て 本 当 に び っ く
り し ま す 。 そ し て 同 時 に 大 き な 大 き な 愛 で 私
達 を 包 ん で い て く れ た 事 に 心 か ら 有 り 難 う と
言 い た い で す 。 手 紙 の 宛 先 は 私 だ っ た り 愛 梨
だ っ た り 、 で も そ の 手 紙 の 中 に は い つ も 私 達
と 故 郷 へ の 思 い が 綴 ら れ て い ま し た ね 。
『 2 0 0 9 年 8 月 8 日 、 今 日 は 私 に 初 孫 が 出
来 た 日 だ 。 娘 よ 頑 張 っ た な あ ! 予 定 通 り に 8
月 8 日 の 今 日 無 事 に 生 ん で く れ て 有 り 難 う !
今 朝 私 は い つ も の 散 歩 で 唐 古 の 楼 閣 に 行 っ て
来 た 、 う す 霧 の か す み の 中 か ら 弥 生 の 楼 閣 の
彼 方 か ら 、 周 囲 の も や を 薄 ダ イ ダ イ 色 に 染 め
な が ら 少 し づ つ 輝 き を 増 す 朝 陽 を 見 て い る と
命 の 尊 さ を 感 じ る 。 今 日 は き っ と 何 か 良 い 事
が 有 る ぞ 、 と 思 っ て い た ら 最 高 の プ レ ゼ ン ト

をお前がくれた。でも娘よ良く覚えておけ！
 弥生の昔から連綿と続いた命の連鎖の結果今
 お前が有る事を！それと知ってるか？8月8
 日と言う日は中国では発財と末広がりに言う二
 つの意味が重なっていて、とても縁起が良い
 特別な日なんだ、北京オリンピックの開幕式
 もこの日だっただろう！だからお前の愛梨は
 特別な子なんだ！』
 こんな日記のようでメモのようなものをお父
 さんが亡くなるまでず〜と綴っていたなんて
 読んでいると私までお父さんが目にしたその
 場所に行ってみたく成るじゃないの。
 『2010年3月3日今日は愛莉の初節句、
 先日作った100日目の足形は掛け物にして
 居間の真ん中に飾ってある、3月3日と言え
 ば32年前の今日お前の母さんと初めてデー
 トをした日なんだ、お母さんは私が一番自慢
 にしている所に行くわ！と連れて行かれたの
 が若草山の山頂だった。お父さんはその風景
 を見てあまりもの穏やかさにびっくりした。

見渡すと快晴の空の向こうには西に生駒信貴
 山、葛城金剛山が堂々と連なり、南にはまる
 で霞の雲の間にポツンポツンと浮かぶ様に大
 和三山がたたずんでいる。お父さんが結婚を
 決めたのはこの日だ。その時大和平野をうっ
 とりと眺めている母さんの横顔を見ていたら
 急にこの人と絶対に結婚しようと思ったんだ
 だからお前達は故郷の風景にお礼を言わなく
 ちなあ〜』
 考えてみると娘の私はお父
 さんの事何にも詳しい事を知らなかったね、
 亡くなって初めて出向先の中国で孤独に耐え
 ながら家族の為に頑張ってくれた事、折々に
 実家のおばあちゃんや家族への思いを綴った
 メッセージを残していた事、そしてこの私達
 への手紙をしまっけて置いたことなど・・・元気
 な時にもっとお父さんに身近でやさしく接し
 て置けば良かった、とっっても後悔してるわ
 『今日は2008年10月13日お前の結婚
 式、今日のお前は本当にきれいだ！新郎も良
 い青年だし苦勞していそうだからきつとお前

を大事にしてくれるだろう、お前はまだ覚えて
いるか？お前が入院して伏せっている時お
父さんが毎日見舞いに行っていた事を、そし
て毎日とっておきの写信を枕元に置いていた
事を、私にいつも背を向けていたお前といっ
たいどう接して良いか分からない時があった
けど、あの時はただただお父さんはお前の近
くに居てやりたかったんだ、そしてお父さん
が愛して止まない奈良の自然を一緒に見たか
った、奈良公園の浮身堂の紅葉は好いぞう！
湖面のきらめきの中にいろいろな緑と赤が映っ
てきらきら輝いているんだ、お前に子供が出
来たらきつと一緒に見に行こう！』お父
さん私今分かったわ、お父さんが何故西湖に
来ては故郷の奈良に思いをはせていたか、何
故私達にこんなメッセージを残してくれたか
お父さんは西湖を訪れた時きつと大和の風景
に包まれて居たんだね、お父さんは私達を愛
するのと同じだけ、大和の風景を愛していた
んだね。読み進む内に居ても立ってもいれな

く成ってお父さんが良く話していた昔の仲間
の李新霞さんに、大学時代に習ったたどたど
しい中国語でお父さんの思い出を辿りたいと
言う申し出をすると李さんは快く応じてくれ
て、今日西湖に案内してくれました。そして
李さんは、せっかくここまで来られたのなら
是非お連れしたい所があると、揚州の
大明寺までついて来てくれました。お父さん
が言っていた通りにとっても親切で、その時李
さんは太い線香の束を頭上高く持ち上げて、
深々と四方に拝礼した後、鑑真和上の像に向
かって何か囁いた後おもむろにこう言った
わ、「お嬢さんここは鑑真和上が日本に渡る
前まで過ごされたお寺です。お嬢さんの前で
すけど小山老師あなたのお父さんはとても厳
しい人でした、でも仕事で工場の中をかけず
り回ってやっとな事務所で休憩されていたかと
思うと、そんな時はいつも財布のポケットの
中から3枚の写信を出して日頃は厳しい顔の
お父さんが、それはそれは穏やかな顔をして

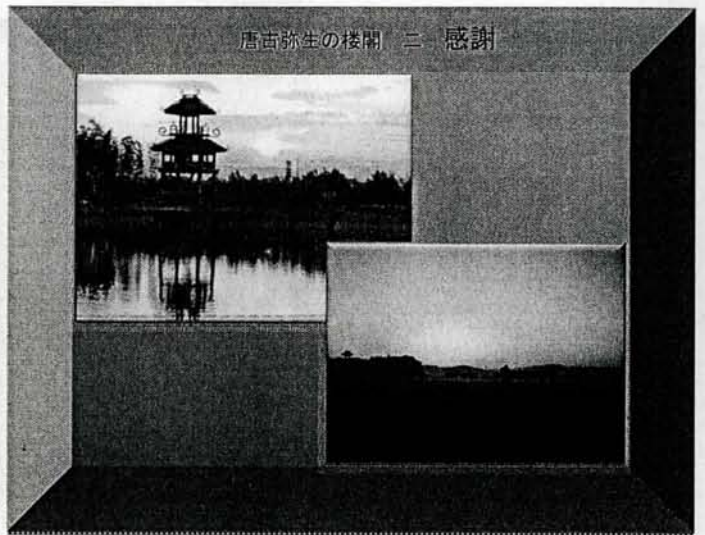
慈しむ様に見ておられました。一枚はお嬢さん
 あなたの写信、もう一枚は故郷の小さい山
 が3つ並んでいる写信、そして私達の鑑真和尚
 の写信、私達部下はね、そんなお父さんを見
 て、こんな心の優しい人だったら、ついて
 行こうって決心したんですよ」
 無くなる前の晩、最後の父の手紙にはこう綴
 られていた。
 【くやまとは国のまほろば たたなずく青垣
 やまごもれるやまとしうるわし】 お前達に
 残せるものは何にも無いけど、お前を生んで
 くれたこのやまとをお父さんは心から愛して
 いる、どうやらお父さんも二上山に落ちてゆ
 く夕陽と一緒に鑑真和尚の元に旅立つ日が来
 たようだ。里帰りしたお前達と一緒に見た天
 理の街路樹の黄色一色に染まった、まるで木
 の葉のじゅうたんのような紅葉は最高だった
 ！お前がくれた最高のプレゼントだ。
 ありがとう！・・・最愛の娘達へ』。これが
 今は亡き父から私達へのラブレターだった。

奈良・大和 自然のハーモニー

唐古弥生の楼閣 一 希望



唐古弥生の楼閣 二 感謝



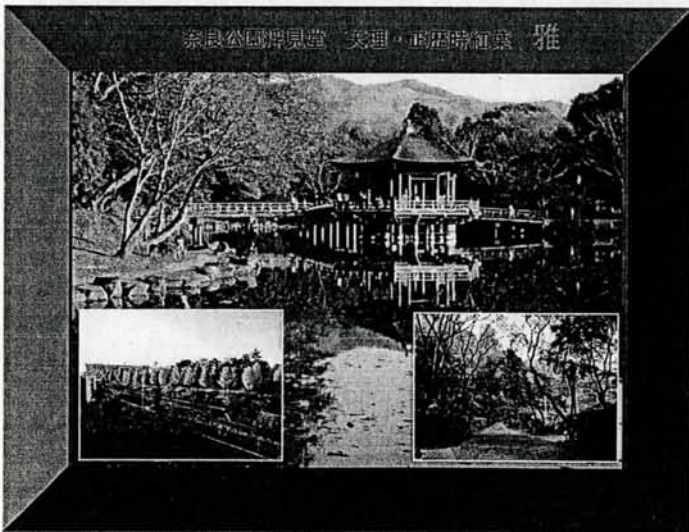
三上山・大和三山 癒やし一



三上山・大和三山 癒やし二



奈良公園神見堂 天理・正倉院紅葉 雅



奈良の里 奈良公園 鹿園 平和

